

歩道の維持管理作業（補修等）作業計画に対する

登山道技術指針運用・活用ワーキンググループ意見（事務局まとめ）

計画者：北海道山岳整備、上川総合振興局 担当：岡崎 哲三

事務局受付：令和元年8月25日

（植生復元工）

- 計画書に書かれているように、どのような場所で効果があり、どのような場所でそうでないのかを検証できるようにしていただくことがとても重要だと思います。（渡邊委員）
- ヤシネットのベタ張りの箇所、今年度の私達の調査で、実生の発芽が見られるのは、傾斜などは関係なく、ヤシネットと土壌の密着具合があるように観察しました。また、巻ネットの下、裏側から実生が発芽する場合もあり、周囲からの土壌や種子を受け止められるような施工が必要だと思います。（愛甲委員）
- 1年目の芽については、ネットがあっても発芽していない箇所があり、ネットがなくても発芽している箇所もあります。ヤシネットに一定の効果はあると思いますが、より効果のある施工とするには客観的な視点での観察が必要だと思います。（藤委員）
- 裾合平一中岳温泉の昨年、一昨年の施工箇所については、定点を設定して経過観察を行っております。現地を確認していただき、経過観察に影響がないように配慮いただけますと助かります。（愛甲委員）
- ヤシネットでの植生復元工について、登山道の環境条件が変わらない場合、新たに定着した植物の後退が再び起こると思われるが、土壌保持力のある植物体となるまでヤシネットの機能が維持されないのではないのでしょうか。（藤委員）

（木柵階段の補修）

- 段差解消と洗掘軽減に同時に取り組もうということで、良いことだと思います。基本的に実績のある工法なので、特段申し上げることはありません。（渡邊委員）
- 段差を解消しても植生帯の上が歩きやすいとそちらを歩く人もいると思うので、ロープの位置をずらす等すると良いと思います。（藤委員）

（昨年度の施工状況と評価について）

- 降雪前に凍上はしている年が多いので、2年目以降の植物体については、凍上しても法面の勾配が緩やかであったため、流されなかった等の理由があるのではないのでしょうか。（藤委員）